

大 野 一 心

NO. 1 3

令和4年7月11日（月） 文責：校長 諸熊 修一

令和4年度「佐世保市少年の主張大会」

7月9日（土）に体育文化会館コミュニティーセンターにおいて、「佐世保市少年の主張大会」が実施されました。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加者を制限し、市内各学校29名の代表を3グループに分けての開催となりました。

本校からは、3年5組の中江仁美さんが代表として出場しました。内容はもちろんのこと、表情豊かに抑揚の付いた話しぶりでとても立派な発表でした。以下に発表内容を紹介します。



「当たり前であるように」 3年 中江 仁美

みなさんは、男女で髪の長さの制限があることに疑問を覚えないだろうか。例えば、私の学校では、女子は髪の毛が肩につくと結ぶように言われる。反対に、男子は髪の毛が耳にかかると切るように言われる。私はこの校則に違和感を感じる。最近、ジェンダー平等が重視されており、制服を自由に選択できる学校が増えてきている。それなのに、なぜ髪の長さには男女別で制限があるのだろうか。校則は学校の秩序、安全を守るためにあるものだからこそ、個性の表現を制限するようなことは好ましくない。

平等が実現すれば差別や生きづらさがなくなり幸せで生きやすい世界ができる。差別は、いじめにつながり、人を悲しませ、また、残酷な戦争にもつながる。

では、差別をなくすにはどうしたらいいのだろうか。「協力」「信頼」、この二つがキーワードになると考える。まず、最も大切なことは自分を信じる力だ。自分を信用・信頼することで自信が付き、余裕ができる。余裕ができれば他人に優しくでき、他人を信じることができるだろう。だが、すべての人がそのように信じるとは思えない。しかし、協力したい気持ちがあれば、きっといつか、世界が変わる、変えることができると思う。



(裏面へ)

では、具体的に「協力」「信頼」を得るにはどうしたらいいのだろうか。私は自分を知ること、相手を知ることがはじめての一步になると考えた。例えば、目隠しをして箱の中身を手で触って当てるゲーム。とても緊張するだけでなく、恐怖を感じると思わないだろうか。人と人との関りもこれと同様に、知らないことが多ければ信頼が生まれる可能性は低いだろう。そこで、「MBTI診断」というテストを活用してみてもいいだろうか。この診断テストで大まかな性格、考えを理解することができる。使ってみることで、相手の性格を少し理解できたり、親しい会話につながったりすると思う。



だが、このテストだけで人の本質が分かる訳ではない。人の深いところまで知るには、やはりコミュニケーションが大きな軸になるだろう。なぜなら、私は今のクラスで、コミュニケーションを通して学んだことがたくさんあったからだ。正直に言うと、四月でのクラスの印象は最悪だった。同じクラスになったことも、話したこともない人が多く、個人的に噂などから苦手だと思っていた人がたくさんいたからだ。噂で人を判断してはいけない。分かっているつもりでも、その人を苦手だと決めつけていた自分をとても恥ずかしく思う。

だが、クラス替えから一か月後、私は今のクラスに安心感と楽しさを覚えていた。五月の体育大会に向けて、団長を中心にクラスのみんなと切磋琢磨し、同じ時間を共有することで相手を知ることができた。良いところも悪いところも理解することができたからこそ今のクラスがあり、自分がいるのだと思うと感動してしまう。もし、同じクラスになっていなかったらこのような経験をすることもなく、ずっと誤解したままだっただろう。

私は人見知りが激しく、なかなか積極的に人と話すことが得意ではない。しかし、私の考えを伝えることで誰かの心に届いて少しでも力になれることを願っている。当たり前のように世界中の人々が幸せな未来を生きられるようになってほしいという願い、そして、幸せだと思う今が当たり前と思わず感謝してほしいという気持ちを込めた。

今の世界は何かについていつも怯えていて不安に満ちている。性別、年齢、言語、国際問題。これらのことを気にして、挑戦することをためらっていないだろうか。一人一人が自由に挑戦できる世界をつくるのが、今を生きる私たちが目指すべき未来である。「誰かが」ではなく「私たち」でその未来を創っていききたい。

※ 各賞の発表については、後日、文書で審査結果が知らされます。